

学校規模適正化基本方針（案）に係る
意見聴取結果
まとめ

令和 7 年 10 月

1	意見聴取の概要.....	1
1.1	実施概要.....	1
1.2	設問内容.....	1
1.3	提示した検討内容.....	2
1.4	結果.....	4
1.4.1	属性.....	4
1.4.2	基本方針（案）及び学校再編に対する意見.....	6

1 意見聴取の概要

1.1 実施概要

目的	学校適正化基本方針の策定に向け、町民から広く意見を聴取するため
実施方法	検討内容の説明動画をオンデマンドで配信し、オンラインで意見聴取を実施した。 回答フォームは、動画の配信画面をはじめ、町 HP、「広報おおの」等の各種媒体に掲載し、回答を呼び掛けた。
実施期間	令和 7 年 7 月 18 日(金)～令和 7 年 9 月 8 日(月)
対象者	大野町民、その他関係者
動画視聴回数	703 回視聴（回答受付終了時）
回答数	69 件

1.2 設問内容

1	あなたに概要する項目を選択してください。（必須） ① 乳幼児の保護者 ② 小中学生の保護者 ③ 18 歳以下の町民 ④ ①から③以外の町民 ⑤ その他（町外者、教職員等）	選択（単回答）
2	お住まいの校区（地域）を選択してください。（必須） ① 大野小学校区 ② 東小学校区 ③ 北小学校区 ④ 西小学校区 ⑤ 中小小学校区 ⑥ 南小学校区 ⑦ 町外	選択（単回答）
3	大野町小中学校のあり方外部検討委員会の答申の内容をご存じですか。 （必須） ① 内容を知っている。 ② 内容は知らない。	選択（単回答）
4	あなたのご意見をお聞かせください。	記述

1.3 提示した検討内容

意見聴取を実施するにあたって提示した「大野町小中学校規模適正化基本方針（案）」の内容を以下に示す。

大野町小中学校規模適正化基本方針（案）

— 概要版 —
令和7年 7月

■策定の目的

少子高齢化やグローバル化、技術革新など、社会や教育を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした中で、これからの学校教育には、「主体的・対話的で深い学び」の実現、および「社会に開かれた教育課程」などの一層高度な教育実践が求められています。

大野町でも、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化といった課題が深刻化しており、現状のままでは時代に即した教育の実現が困難となる懸念があります。

こうした状況を踏まえ、**次代を担う子どもたちにとって将来にわたり持続可能で最適な教育環境の整備・充実を図り、教育の質の向上を目指すことができる学校のあり方を示すこと**を目的に、本基本方針（案）を策定しました。

■基本方針

小学校1校、中学校1校に統合し、校舎を新設して再編を行う。

◎上記の方向性で学校再編を進めることによって、次のような効果が期待できます。

- 1つの学校において、**ある程度の児童生徒数を確保できる**ことから、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせることがより可能となる。
- 児童生徒数を確保すると同時に、経験年数、専門性、男女比等について**バランスのとれた教職員の配置が可能になる**ことから、質の高い教育の提供が可能となる。
- 統廃合を契機に、これまでの学校ではできなかった**多様な学びの場の環境を新たに整備**することで、児童生徒に今まで以上のより良い環境の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実による「主体的・対話的で深い学び」を実現できる教育環境を提供することが可能となる。


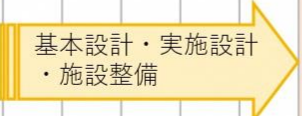
より良い教育の提供が可能になる

■具体的な方策

1 小中一貫教育の導入	2 学校と地域の新しい関係性づくり
<p>小中一貫教育を導入し、 『義務教育学校』を目指します。</p>	<p>これまでの関係性を維持するとともに、 より発展させます。</p>
<p>以下のような効果が期待できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教科担任制の実現による、専門性の高い授業の提供 ・「中1ギャップ」の緩和・解消 ・異学年交流を通じた相互の発達・成長や発達段階に応じた柔軟かつ効果的な指導 	<p>これまで地域単位で行ってきた取り組みを活かしつつ、「大野町全体がひとつとなって子どもたちを育てる」という意識の枠組みのもと、学校と地域の新しい関係性作りや大野町独自の教育を進めます。</p>
3 安全・安心な通学手段の検討	4 学校施設の配置
<p>安全・安心に通学できる手段について、以下の検討を進めます。</p>	<p>適地を慎重に選定します。</p>
<p>●スクールバスの導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が長くなる児童生徒を対象 ・独自の基準を設ける方針 <p>●その他、安心して通学できる環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全面に配慮した通学路の選定 ・地域の見守り隊との連携 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各所の通いやすさ ・地域ごとの交通事情 ・道路の安全性 ・通学距離の偏り など <p>➡ 総合的に検討</p>

■スケジュール

令和13年度に「義務教育学校 開校」を目指し、より具体的な検討を進めます。

総合計画	第七次総合計画							
年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	
全体計画								
								義務教育学校 開校

■配慮事項

学校規模適正化の実現にあたっては、次の4つの事項に配慮しながら進めます。

1	こどもたちの教育・生活環境への配慮
2	保護者の方への配慮
3	地域への配慮
4	廃校後の学校跡地および施設の有効活用



▲説明動画



▲アンケート



▲これまでの検討

■みなさまのご意見をお聞かせください。

本基本方針（案）をご覧いただいたご感想やご意見を、ぜひお寄せください。



大野町役場 学校教育課：0585-34-1111

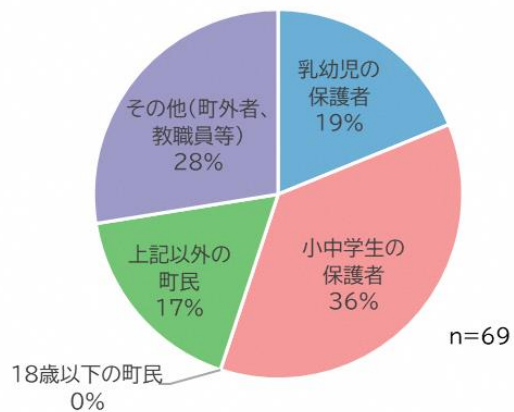
※「大野町小中学校規模適正化基本方針（案）」

1.4 結果

1.4.1 属性

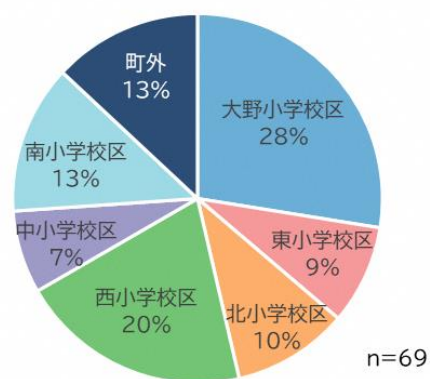
■回答者属性

	回答数	回答割合
乳幼児の保護者	13	19%
小中学生の保護者	25	36%
18歳以下の町民	0	0%
上記以外の町民	12	17%
その他（町外者、教職員等）	19	28%
合計	69	100%



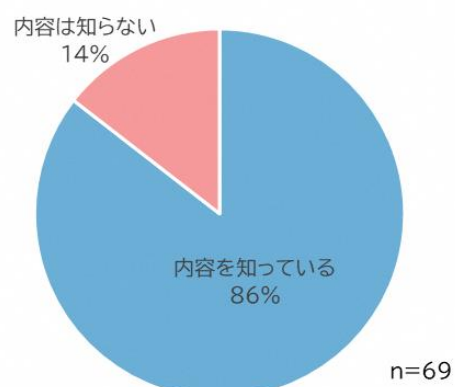
■居住校区（地域）

	回答数	回答割合
大野小学校区	19	28%
東小学校区	6	9%
北小学校区	7	10%
西小学校区	14	20%
中小小学校区	5	7%
南小学校区	9	13%
町外	9	13%
合計	69	100%



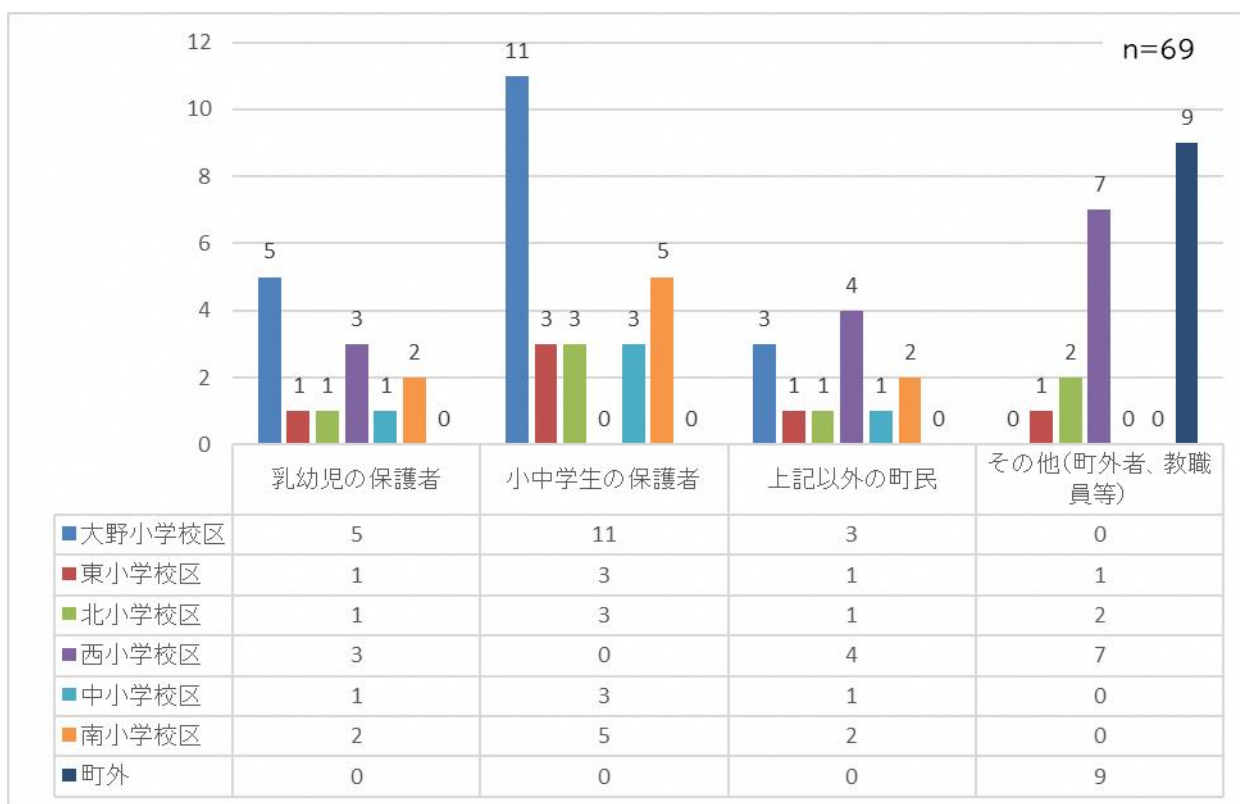
■大野町小中学校のあり方外部検討委員会の答申内容について

	回答数	回答割合
内容を知っている	59	86%
内容は知らない	10	14%
合計	69	100%



■属性×居住校区

	大野小 学校区	東小 学校区	北小 学校区	西小 学校区	中小 学校区	南小 学校区	町外	合計
乳幼児の保護者	5	1	1	3	1	2	0	13
小中学生の保護者	11	3	3	0	3	5	0	25
18歳以下の町民	0	0	0	0	0	0	0	0
上記以外の町民	3	1	1	4	1	2	0	12
その他（町外者、教職員等）	0	1	2	7	0	0	9	19
合計	19	6	7	14	5	9	9	69

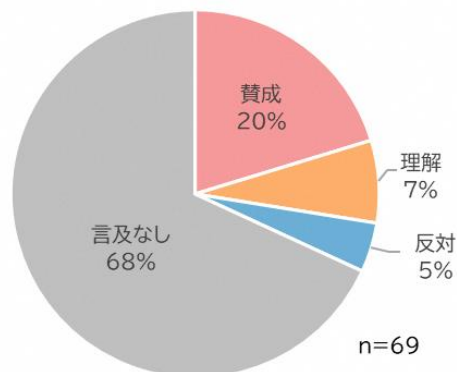


1.4.2 基本方針（案）及び学校再編に対する意見

■賛否の立場

「設問 4」の回答より、基本方針（案）の内容や、学校再編に対する賛否を以下の項目に分類して集計した。

賛否の立場	回答数
賛成	14
理解	5
反対	3
言及なし	47
合計	69



（分類）

賛成：「賛成する」「良いと思う」など、明確に賛成の意が読み取れる回答

理解：「仕方がない」「やむを得ない」など、消極的に容認する回答














反対：「反対する」など、明確に反対の意が読み取れる回答

言及なし：賛否を明言していない回答

- 「賛成」「理解」は合わせて 27%である。
- 「反対」は 5%である。
- 「言及なし」は 68%であり、記述内容から回答者の意見、要望等を慎重に確認する必要がある。

■意見・要望等の分類

意見・要望等の内容を以下の項目に分類して集計した。なお、1つの回答に複数の項目が含まれる場合は、重複して計上した。

項目		回答数	
再編の進め方	「段階的に進めるべき」等の再編の進め方に関する意見・要望・質問等	3	
学校形態	学校形態に関する意見・要望・質問等	8	
通学	通学距離、手段、保護者の送迎等に関する意見・要望・質問等	10	
配置・整備方針	学校の配置場所や、新設等の整備方針に関する意見・要望・質問等	17	
施設設備	施設設備に関する意見・要望・質問等	5	
跡地・廃校舎活用	廃校後の学校跡地および施設の有効活用等に関する意見・要望・質問等	6	
財政・コスト	財政や学校建設・運営費に関する意見・要望・質問等	5	
子どもたちへの配慮	子どもたちへの配慮に関する要望や意見・要望・質問等	7	
地域への影響	統廃合に伴う地域への影響に関する意見・要望・質問等	4	
教育方針・体制	カリキュラムや教員の確保等の教育方針・体制に関する意見・要望・質問等	6	
スケジュール	再編の実施時期に関する意見・要望・質問等	10	
検討の内容・進め方	これまでや今後の検討内容・進め方に関する意見・要望・質問等	15	
その他	保護者への配慮や学童、学用品、人口増加施策等に関する意見・要望・質問等	17	

■意見・要望等の内容（まとめ）

意見・要望等の内容を項目別にまとめた。

<再編の進め方> 3件

まとめ	町の考え
<p>◆ 校舎新設の費用面から、既存施設を活用した段階的な統合を提案する意見や、人口増加への期待から再編はまだよいとする意見、さらに子どもたちの心理面を考慮した再編の方法についての意見が寄せられた。</p>	<p>● 町の出生数は、多い時には300人を超えていましたが、令和3年度には100人を切り、令和6年度は58人、令和7年度は半期が経った現在20人と減少の一途をたどっており、現状のままでの学校運営でよいと考えることはできません。段階的な再編を含めた様々な可能性を視野に入れ、当事者である児童・生徒に最大限に配慮した再編方法を検討していきます。</p>

<学校形態> 8件

まとめ	町の考え
<p>◆ 「（義務教育学校ではなく、）小中一貫にすべき」「小中一貫校も選択肢として残した方が良い」といった意見や、「小学校1校・中学校1校に反対」とする意見が見られた。</p> <p>※新設等の整備方針に関する意見は、「配置・整備方針」でまとめる。</p>	<p>● これまで大野町の小中学校のあり方については、こどもたちの教育環境を第一に考えて検討を重ねてきました。将来にわたって望ましい学校教育を実現するためには、一定の学校規模や学級規模を保つことが大切であり、そのためには「小学校1校・中学校1校」とすることが望ましいと考えています。外部検討委員会では、令和4～5年度に7回、令和6年度に3回、段階的に議論を行ってきました。その中では「現状維持」と3つの再編パターンについてシミュレーションを行い、「学校規模」「施設コスト」「通学距離」の3つの観点から比較を行ってきました。そしてみなさまから意見を聴取した結果、小学校1校、中学校1校の小中一貫教育が望ましいという意見を一番多くいただきました。この比較検討の詳細や、各回の検討内容は町ホームページでもご覧いただけます。</p> <p>● 現在、岐阜県内において、小中一貫教育の併設型校は2校、小中一貫教育の分離型校は1校、小中一貫教育の義務教育学校は6校が開校しています。（児童、生徒、保護者、教員に配慮した施設形態や導入方法等を含めて慎重に検討していきます。）</p>

<通学> 10 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 通学方法に対する不安の声が多く寄せられた。こどもや保護者に負担のない対応が求められる。 ◆ スクールバス導入に関しては、「通学距離に関わらず、さまざまな事情を考慮した柔軟な対応」や「安全な運行」「路線バスの活用」などの意見が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨今の気候変動の影響や、交通・犯罪リスクの高まり、共働き家庭の増加による送迎等の負担、部活動による帰宅時間の変化などの社会的背景を十分に理解し、こどもたちが安心安全に通学できる手法を検討してまいります。 ● 特にスクールバスの導入については、みなさまからいただいたご意見を踏まえ、さまざまな事情を考慮しながら、町としての方針・導入方法を定めてまいります。

<配置・整備方針> 17 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 配置の条件については、以下の要望が見られた。 <ul style="list-style-type: none"> ・「土地のゾーニングを踏まえた場所」 ・「人口重心地」 ・「現在の小中学校の土地」 ・「どの校区からも通いやすい環境」 ・「大多数が通いやすい場所」 ・「災害時に安全な場所」 ・「徒歩または自転車通学が可能な人数が多い場所」 ・「バス運行が最小となる場所」 ◆ 財政・コストの面から、既存施設を活用した再編を提案する意見や、概算費用の提示を求める声が見られた。 ◆ その他、配置が定まっていないことに対する不安の声が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校配置に関しては、みなさまからいただいた具体的なご提案や不安の声を真摯に受け止め、町内各所からの通いやすさ、地域ごとの交通事情、道路の安全性、通学距離の偏りなどを総合的に検討し、適地を慎重に選定してまいります。 ● 現在の小中学校施設は老朽化が進んでいることから、大規模改修や維持管理にかかるコストを「令和5年度 建築物のライフサイクルコスト（国土交通省 官庁営繕部監修、（一財）建築保全センター発行）」を基に算出し考慮した結果、再編を契機に多様な学びの場を整備することで得られる教育効果も踏まえ、新設が最適な方針であると考えております。 ● 財政面やコスト面も十分に考慮し、こどもたちにとって最善となる施設計画を検討してまいります。なお、具体的な概算費用等については今後に策定する学校規模適正化基本計画にてお示ししてまいります。

<施設設備> 5 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「将来的な空き教室の活用を考慮した施設整備」や、「保護者送迎のスペース確保」「防犯対策」「スクールバスの安全対策」「熱中症対策としての冷房の整備」「広い駐車場の完備」を求める意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 具体的な施設整備については、みなさまからいただいたご意見を踏まえ、今後に策定する学校規模適正化基本計画にて検討を進めてまいります。

<跡地・廃校舎活用> 6件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 現在の小中学校は災害時の避難場所となっていることから、再編後の扱いについて関心が寄せられた。 ◆ 跡地・廃校舎の活用案として、以下の意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・「地域ビジネス拠点」(コワーキングスペース、サテライトオフィス、地元産品の加工所・販売所) ・「観光・交流拠点」(宿泊施設、キャンプ・アウトドア施設) ・「福祉・教育施設」(保育園、学童教育、子育て支援拠点、オンライン教育施設、生涯学習施設、老人ホーム、リハビリ施設、介護施設、デイサービス、カルチャースクール) ・「プールを活用した水栽培拠点」 ・「防災用品保管施設」 ・「緊急避難施設」 ◆ 「適切な解体が良い」という意見や、「(活用の検討は) まだはやい」といった意見も見られた。 ◆ 思い出に残るようなモニュメントなど、地域や卒業生の学校への愛着に配慮する意見もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 廃校後の学校跡地および施設の有効活用については、さまざまな可能性が考えられます。みなさまからいただいたご意見を踏まえ、地域の意見を聞きながら、地域に配慮した検討を丁寧に進めてまいります。

<財政・コスト> 5件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 校舎新設に対する財政・コスト面の不安の声が多く寄せられた。 ◆ 建設費の概算を求める意見があった。 ◆ 学校を再編するにあたって、「運営費用の見直しも重要」との意見も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 財政面やコスト面については、建設費だけでなく運営費の見直しなども含め、慎重に検討してまいります。なお、具体的な概算費用等については今後に策定する学校規模適正化基本計画にてお示ししてまいります。

<子どもたちへの配慮> 7件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 再編に伴う環境の変化に、児童・生徒が適応できるか不安の声がある。 ◆ ケアやサポート体制を整え、保護者向けの説明会の実施、こどもに配慮した再編の方法などが求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校規模適正化の目的は、こどもたちにとってより良い教育環境を提供することであり、こどもたちへの精神的な負担を軽減し、適切な支援やケア体制を整えることは、今回の再編を検討するうえで最も配慮すべき重要な事項のひとつであると認識しております。今後もしっかりと検討を重ね、こどもたちや保護者のみなさまの不安を取り除けるよう努めてまいります。

<地域への影響> 4 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ これまでの学校と地域の関係がなくなることに対する不安の声が寄せられた。 ◆ スクールバスのルート検討や対象者の選定においても、こどもたちと保護者・地域間の関係に配慮し、互いの意見やこどもたちの気持ちを尊重することを求める意見が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 再編に関する各検討段階では、学校がなくなることによる地域への影響を改めて考慮し、地域の方に十分な情報を共有するとともに、対話を重ねながら丁寧に周知し、学校と地域の新しい関係性づくりに努めてまいります。

<教育方針・体制> 6 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育方針・体制として、「誰一人とり残さない教育・雰囲気」「一人一人の児童・生徒に目を配ってあげられる体制」「安心して安全に通うことのできる環境整備」などが求められている。 ◆ 具体的には、「基本 5 教科は教科ごとにクラス編成を変える」「十分な数の教員の確保」「外国語教育の充実」などを求める意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一番に大切にすべき教育方針・体制に関しては、みなさまからいただいたご意見を踏まえ、こどもたちにとってより良い教育環境となるよう、万全な体制をもって、こどもファーストを確認し検討してまいります。

<スケジュール> 10 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 令和 13 年度開校予定に対して、前倒しを希望する声が多く寄せられた。 ◆ 一方で、10 年、15 年程かけて慎重に進めるべきとする意見もある。 ◆ 「なぜ令和 13 年度開校なのか」、「遅れることはあるのか」といった疑問も見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 検討に要する時間や設計・建設期間を考慮した結果、令和 13 年度が最短と考えられるため、開校の目標年度として考えております。また、みなさまとともに創っていく学校としていくために、目標年度をずれ込むことも考えています。 ● みなさまの不安や疑問を理解し、丁寧にお応えできるよう、情報発信に努めてまいります。

<検討の進め方> 15 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ これまでの検討に対しては、以下の意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討の根拠（将来の児童・生徒数推計、50 年先までの見通し、新築判断の理由など）の妥当性に疑問がある。 ・ 保護者への周知が遅れており、早い段階での情報提供が望まれる。 ・ 保護者の検討委員会への関わり方が不明瞭である。 ・ 前回の意見聴取の回答数（129 件）は少なすぎる。 ・ （意見聴取時に示した再編パターンに、）「現状維持」「そのほかの組み合わせ」がなかったことに疑問がある。 ・ 「小学校 1 校・中学校 1 校」を支持する市民が多かったにも関わらず、義務教育学校を目指す理由が不明である。 ・ 大野町が考える「切磋琢磨」の内容が見えてこない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒数の将来推計は、大野町の統計に「国立社会保障・人口問題研究所」公表の「出生中位（死亡中位）推計（令和 5 年推計）」の人口減少傾向を反映させ、大野町教育委員会にて独自に算出しております。令和 6 年度の外部検討委員会にてお示しした資料と令和 7 年度でお示しした資料で推計値が異なるのは、令和 7 年度版では令和 7 年の出生数の実績値を反映させたためです。推計値はあくまで参考で実際は異なる可能性もありますが、将来を見据えて検討する際の重要な資料であると考えております。 ● 学校規模適正化を検討するにあたっては、こどもたちにとってより良い教育環境が長く続くことが重要と考えております。そのため、短期的な視点ではなく、長期的な視点で考えることを重視し、施設の耐用年数なども考慮して、50 年先までを想定しながら検討を行って

<p>◆ 今後の検討に対しては、以下の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少を受けて再編よりも、人口増加施策に取り組むべきである。 ・義務教育学校のデメリットを基本方針に明記すべきである。 ・メリット、デメリットを知ったうえで、直接話を聞く機会を設けてほしい。 ・保護者全員と地域の方々と話し合う場をもっとしっかり設けてほしい。 ・市民の意見を聞きながら進めてほしい。 ・専門家や、町、学校関係者だけで話を進めるのではなく、市民や保護者の意見を聞きながら進めてほしい。 ・情報発信を随時行ってほしい。 ・共働きが多い時代なので、柔軟に対応してほしい。 ・持続的な財源確保を念頭に、課題に取り組むべきである。 ・義務教育学校の先行事例から情報収集をし、検討に活かしてほしい。 ・学校施設の様々な活用方法や周辺への影響も考慮して、場所の選定に十分時間をかけてほしい。 ・再編に伴う環境変化への子どもへのサポート体制を整え、保護者向けに説明会を実施してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● あります。 ● これまで町ホームページや「広報おおの」（令和6年7月号～）、シンポジウム、タウンミーティングなどを通して、適宜情報を発信してまいりました。今後も、より多くの方に情報が届くよう発信方法を工夫するとともに、市民や保護者のみなさまのご意見を伺いながら、地域全体で検討を進めてまいります。 ● これまで全10回（令和4～5年度：7回、令和7年度：3回）にわたり開催した外部検討委員会には、学識経験者や有識者に加え、保護者代表（こども園・小学校・中学校から各1名）、地域代表（各地区の広報委員6名）、学校代表（小中学校校長会代表）、こども園代表にご参加いただき、多様な視点を大切に、議論を重ねてまいりました。各委員はそれぞれのコミュニティの代表として参加しており、市民のみなさまに実施した意見聴取結果を踏まえて議論した内容を答申としています。今後も、より多くの市民のみなさまに関心をお寄せいただき様々な視点を大切にしながら検討を進めてまいります。 ● パターン別シミュレーションでは、学校再編（統廃合）について、「現状維持」を含む4つのパターンに分けて検討しました。「案2 小学校2校、中学校1校」については、通学距離を考慮した「①現在の中学校区をもとに統合」と、地域との関係性を考慮した「②学校変遷をもとに統合」の2パターンを設定しました。「大野小・北小・西小」と「東小・中小・南小」をそれぞれ統合するパターンも考えられますが、②のパターンよりも早い段階で1つの小学校で1学年1学級となる見込みです。その他の組み合わせについても、通学上現実的ではないものや早期に1学年1学級となる推計のものは、省略しております。パターン別シミュレーションの詳細は、「令和6年度 第1回外部検討委員会（令和6年11月13日）」の資料でご確認いただけます。 ● 前回の意見聴取では、「案1-② 小学校1校・中学校1校（小学校、中学校をそれぞれ1校ずつに統合）」を支持するご意見も多くありましたが、「案1-① 小学校1校・中学校1校（小中一貫校または義務教育学校として統合）」を支持するご意見が最も多い結果となりました。この結果を踏まえ、子どもたちの教育環境について改めて検討し、「小中一貫教育の導入」を方針の1つとしております。 ● 義務教育学校の導入については、他事例の情報収集を行いながら、実現可能性や具体的な導入方法について検討します。 ● 学校規模適正化基本方針の策定後には、学校規模適正化基本計画の策定を行います。策定する内容は学校の概要となるもので、特に学校の配置や通学方法などは慎重に進めていきます。今後は、地域への説明と意見をいただく場を計画してまいります。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校生活の環境が大きく変わり精神的な負担がかからないよう配慮するとともに、負担が生じた場合においても適切なケアや支援が行える体制づくりを検討します。 <p>※他項目に対するコメントと重複する内容は省略しておりますが、みなさまのご意見を真摯に受け止め、検討を進めてまいります。</p>
--	---

<その他・感想等> 17 件

まとめ	町の考え
<ul style="list-style-type: none"> ◆ 人口増加施策や、保護者の負担が増加することに対する配慮、子育て支援（給食の無償化、住民税控除など）、教員の確保、特別支援学級への支援員の配置、学童、再編後の学用品（制服、体操服やランドセル・通学バッグなど）の統一や柔軟な対応などに対する疑問や要望が寄せられた。 ◆ その他、「今からできることは進めて、統合されたときの混乱を少なくしてほしい」「送迎時の渋滞に対して保護者送迎のスペースを確保してほしい」「再編に係る費用を削減し、こどもたちの学校生活に支障が出ないよう配慮してほしい」といった意見があった。 ◆ 意見や要望ではないものの、再編に対して前向きな感想も複数見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ご意見にある通り、人口増加や魅力向上は大野町にとって重要な課題のひとつと捉えております。しかし、少子高齢化は全国的な問題でもあることから、こどもたちの教育環境を考慮した学校規模適正化も並行して進めなければならないと考えております。そのために必要な支援や関連する施策などについては、あわせて検討してまいります。 ● 学用品等については、まだ検討段階前ではありますが、当事者であるこどもたちや保護者のみなさまの混乱や不安を避けるため、可能な限り早い段階で情報を発信してまいります。 ● みなさまからいただいた期待の声にお応えできるよう、またより多くの方に「わくわく」を感じていただけるよう、今回いただいたご意見を改めてしっかり咀嚼し、今後の検討を進めてまいります。